

## 川原寺鉄釜鑄造遺構復原模型の製作

2003年2月から7月末におこなった史跡「川原寺」地内北端の調査では、川原寺に付属する様々な工房関係の遺構や遺物を発見することができました。

その中でも調査区南半の丘陵裾で検出した鉄釜の鑄造遺構は、類例のない古代の大型鉄製品の鑄造遺構として大きな注目を集めました。鑄造遺構は直径2.8mの大型土坑で、その中央には鉄釜の鑄型が据えられた状態で遺存していました。

鑄型が鑄造時の状況をとどめて残るのはきわめてまれなことです。そこで鑄型の取り上げ作業にあわせて、出土状態を再現する模型を製作することにしました。

この作業には次のような制約がありました。まず第1に、鑄造遺構の下部構造の調査をおこなうため、遺構の損傷は許されません。第2に、鑄型は細かく

ひび割れていましたが、これを発見時の姿で取り上げなければなりません。このため、鑄型に強化剤を塗布して補強し、その後に遺構の表面を樹脂で型取り、鑄型の取り上げと同時に遺構の表面の土を剥ぎ取り、室内でこれらを組み立てることにしました。

こうしてできあがった出土状態の再現模型が、写真に見るような縦1.2m、横1.8mの模型で、実物の鑄型をはめこんだものです。鑄型の取り上げ後に、鑄造遺構の調査を継続しましたが、鑄造時に発生するガス抜きのための穴を四方に設けた特殊な基礎構造が明らかになり、古代の鑄鉄技術を解明する上で大変貴重な発見となりました。

復原模型は、飛鳥藤原宮跡発掘調査部資料室に展示しています。ぜひ一度実物をご覧になり、古代の鑄造技術の一端に触れてみてはいかがでしょうか。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 渡部圭一郎)

